

## テーマ：「土」～ 季節の花や野菜を育てる

### テーマを設定する

- ・ 土から育まれる花や野菜の生長に興味関心を持つ。
- ・ 自らの手で育て収穫した野菜を、園内での調理や家庭で味わう。
- ・ 野菜の収穫を通して、食を大切に思う心を育む。
- ・ 五感を働かせながら自然に触れ、植物の変化を感じ取る。

### 活動スケジュール

- 5月:季節の花の苗植え、ゴーヤの苗植え、さつまいもの苗植えをする。
- 6月:ジャガイモの収穫をする。(全学年)
- 7月:ゴーヤの収穫をする。  
砂場の砂とニチニチソウの花でおままごと遊びをする。
- 9月:大根の種まきをする。(全学年)
- 10月:サツマイモの収穫をする。園内で調理し試食。
- 11月:大根の収穫をする。(年長)  
ヒヤシンスの水栽培をする。(全学年)
- 12月:大根の収穫をする。(年中・年長)
- 3月:ジャガイモの芋苗を植える。(全学年)

### 活動

- ・ 季節ごとに野菜の苗植えや種まきをして育て、育った野菜を収穫し園内で調理し試食会で食べたり、ご家庭で味わって収穫の喜びを体験する。
- ・ 季節の花のお世話をして育てる。
- ・ ヒヤシンスの水栽培を通して、球根から花が咲き枯れるまでの成長過程を観察する。

### 環境をデザインする

- ・ 畑を作る(ジャガイモ・大根)。
- ・ プランターの準備をする(サツマイモ)。
- ・ 花壇の準備をする(季節の花、ゴーヤ)。
- ・ ヒヤシンス水栽培用の球根と入れ物を用意する。

### 探究活動を実践する

#### ○活動内容

- 5月 :季節の花の苗を植える。
- 6月 :3月に植えたジャガイモの収穫をする。
- 7月 :ゴーヤの収穫をし、持ち帰る。  
(夏の預かり保育の子ども達)
- 9月 :千葉の農家の綿貫さんに来てもらい、大根の種まきをする。  
(全学年)
- 10月:さつまいもの収穫をする。  
園でゆでて皆で食べる。(全学年)
- 11月:年長組が大根の収穫をする。  
ヒヤシンスの水栽培をする。
- 12月:年少中組が大根の収穫をする。
- 3月:千葉の農家の綿貫さんに来てもらい、ジャガイモの芋苗の植え方を教えていただき、苗植えをする。(全学年)

#### ○子どもの様子

- ・ いざ大根の種を植える際、手のひらに乗せられた「大根の種」を見て、思わずその小ささに「え、こんなに小さいの～」と驚く姿があった。(1粒が2～3mm)
- ・ 登降園時や園庭で遊ぶ際に、自分が植えたところに芽が出ているか観察し、日々の成長に期待を膨らませていた。
- ・ 「わぁ～ひげみたいのがついてくる」と土の中から引き揚げたさつまいもに、ひげがついているのを見て驚いていた。
- ・ 収穫した大根の足が二股に分かれているのを見て、「なんかこれ歩き出しそう」と大根を擬人化して面白がる姿があった。
- ・ ヒヤシンスを栽培している中で、それぞれの球根にクラスで決めたお名前を付けて、「ぴーちゃん、新しいお水だよ」と声を掛けてお世話をしていた。

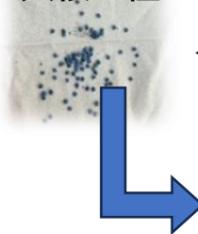
#### <ジャガイモの収穫>



#### <ゴーヤの収穫>



#### 大根の種



#### <大根の種まき→発芽→収穫>



#### <さつまいもの収穫→園で調理して試食会>



#### <ヒヤシンスの水栽培>



#### <じゃがいもの苗芋植え>



### 振り返りを踏まえた気付き

#### ○保育者より

- ・ 自然の土や虫等に初めて触れる子どもいたが、全園児嫌がることなく、土に触れて収穫できたことに驚きを感じた。
- ・ 二股に足が生えたような大根など、店頭には並んでいないきれいな野菜とは異なる自然の姿を見る事で、食に対する興味を広げるきっかけの一つになっていると感じた。
- ・ 大根の葉が虫に食べられてしまい、葉っぱに穴が開いている様子を見て、面白がっている子ども達もいた。自分が思ったこと、感じたことを保育者や友達と共有しコミュニケーションをとることで、相手との関係がより深まっているように思う。
- ・ 園で調理したり、家族と味わったりすることで、食を大切に思う心が自然と育まれたと感じる。
- ・ 大根の最初の種まき後、半分以上の芽がコガネムシの幼虫に食べられてしまい、2週間後に再度大根の種まきを行った。予期しない出来事を経験し、チャレンジ精神が育まれた。

## テーマ：「健康」～ 運動を通して

### テーマを設定する

- ・ 年間を通じて、いろいろな運動に友達と一緒に取り組み、身体を動かす楽しさを味わいながら、協調性を育む。
- ・ 柔軟性、体力の向上を図りながら、安全な遊び方を学び、自分の身体を守り、健康を保てるようにする。
- ・ 自分の体の動かし方を知ること、感覚や感性を育む。
- ・ 具体的な目標に向かって、自ら考え、試行錯誤するプロセスを通して、身体を動かすことへの意欲を伸ばす。

### 活動スケジュール

年間を通じて： 毎日の保育の中に朝マラソンと柔軟体操の時間を取り入れる。「走る」動きには学年に応じた、いろいろなバリエーションを入れて取り組む。

4月～6月： マット、跳び箱を使用し、跳ぶ・登る・転がるなどの様々な運動。

7月～9月： 運動会へ向けての取り組み  
年長組 リレー 組体操 ソーラン節  
年中組 かけっこ パラバルーン  
年少組 かけっこ 椅子体操

10月～11月： 鉄棒や縄跳びを使用し、跳ぶ・蹴る・回転するなど様々な運動。

12月～3月： ボールを使用し、投げる・キャッチするなど共同する運動。年長組はドッジボール遊び。

### 探究活動を実践する

#### ○活動内容

##### 朝マラソン

年少組：トラックにまっすぐな道やくねくね曲がった道の形をラインで引いて子ども達と跳んだりジャンプ等をしながら、かけっこを楽しむ。

年中長組：学年毎のかけっこや 3～4 人でのかけっこをして足や手の動きを探究する。バトンリレーなども取り入れる。

【1 学期】 保育者と一緒に戸外で身体を動かすことを楽しみ、マットや跳び箱での運動に取り組み、手や足の動きを主体的に確認する。

【2 学期】 運動会で今まで練習を重ねてきた運動活動を保護者の前で発表し、達成感を味わう。皆で力を合わせる為に子ども達が主体的にコミュニケーションを取り合い、共同する。

【3 学期】 手や足を柔軟に使って行う縄跳びや鉄棒に取り組む。年長組は総合的な動きが必要となるドッジボールに取り組む。

週に1回、体育講師を招き、保育者と子ども達が身体を使った遊びを展開する中で、仲間たちと協力しながら、自らやってみたいという興味関心を深め、身体活動における表現力を探究した。

#### ○子どもの様子

- ・ 朝マラソンを開始当初は、お友達と一緒に走ることが楽しいと、笑顔で走る姿が見られたが、年中・年長組になると、走ることを通して、他学年に自分よりも足が早い子がいることを知り、「もうちょっとでぬけたのに」と悔しがらる姿が見られた。
- ・ 最初は慣れない難しい動きに、保育者に補助を求める姿があったが、だんだん運動表現に慣れて自信がついてくると、「できるから、見てて！」と保育者に見せに来てくれる姿があった。
- ・ 鉄棒はぶら下がりから前回りにも挑戦！くると回ると気持ち良かったという子もいれば、「ふらふらする」と感覚の変化を感じている子もいた。ひとたび逆上がりができるようになると、園庭遊びの時間には、鉄棒のところに行って何度も逆上がりを繰り返している姿が見られた。
- ・ 縄跳びの時間に、うまく回せなかった子ども達が、園庭遊びの時間に縄跳びを持って園庭に出て、どうしたらうまく縄を回せるか、腕の動きを確認し合い、「先生教えて」と保育者を介して主体的に取り組む姿があった。

### 環境をデザインする

- ・ 朝、園庭の清掃を行い、朝マラソンや縄跳び、鬼ごっこなどいろいろな運動ができる環境を整備しておく。ラインパウダーの他、カラーコーン、鉄棒、縄跳び、ボールを用意する。
- ・ 猛暑・雨天時は遊戯室で運動が行えるよう、オーディオ機器やマット、跳び箱を整備しておく。

#### <朝マラソン>



#### <マット・跳び箱を使った運動(全学年)>



#### <年少:椅子体操/年中:パラバルーン/年長:組体操>



#### <鉄棒>



#### <マラソン大会> (年長)



#### <ドッジボール> (年長)



### 振り返りを踏まえた気付き

#### ○保育者より

- ・ 身体を動かすことが得意な子もいれば、そうでない子も、お互いに教え合ったり、できたときに褒め合ったりする姿が見られ、目標へ向けて共に関わり合う姿が見られた。
- ・ 子ども達へ体育講師よりの確かな動きのアドバイスをもらい、身体能力の向上を感じた。
- ・ 日々の継続した運動を通じて、子ども達が自分で運動に興味関心を持って身体の色々な部分を使って取り組む姿が見られた。
- ・ 年長組のマラソン大会では、2キロのコースを10分台で完走する姿があった。早く走るにはどうしたらよいかと足を上げたり、手を大きく振るなど主体的に自分の体と向き合っているなど感じた。
- ・ 日々、しっかり走っているからこそ、鬼ごっこなど、園庭での運動遊びに広がりを感じられた。